

●エサ付けから取り込みまでも実に手際よい



▲しっかり追い食いを狙って掛けていく。もうすっかりベテランの領域



▲初めての初島沖。船長の詳細なレクチャーにしっかり耳を傾ける



▲航程30分ほどの初島沖がポイント。天気もロケーションも最高だ



▲1投目はダブル。ここから入れ食い

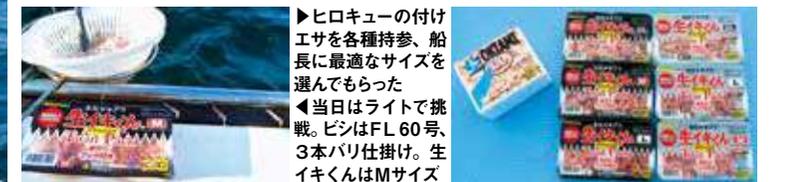


★2投目にはパーフェクト。これでしほみんのスイッチが入った

気まぐれ連載●第1回 **しほみんの船釣り行脚** 相模湾福浦港出船のイサキ

しほみん、釣りオヤジになり 激うまいイサキを釣りまくる

★グラビアアイドルの吉野七宝実さん、「しほみん」はファンの間でも船釣りが趣味であることが知られている。テレビ出演やタレント活動で、ハードな日々を縫って釣行した模様をレポートする連載がスタート。1回目はしほみんが大好きなコマセ釣りのイサキだ。



▶ヒロキューの付けエサを各種持参、船長に最適なサイズを選んでもらった
▲当日はライトで挑戦。ピシはFL 60号、3本バリ仕掛け。生イキくんはMサイズ

HIROKYU ヒロキューの付けエサ 生イキくんツインパックシリーズ

オキアミのトップメーカー、ヒロキューでは付けエサ用のオキアミ、生イキくんツインパックを12アイテム発売。鮮度抜群、型くずれせず、冷凍庫でも凍らないのが特長。今回はイサキ用としてレギュラーとクリスタルハードを持参した。

生イキくん ツインパック レギュラー



南極トロール船で捕獲したオキアミの中で最高のものを厳選、加工した不凍タイプの付けエサ。M、ML、L、2Lの4種。価格はオープン

生イキくん ツインパック クリスタルハード



生イキくんのプリプリ感そのままに身を詰めてエサ持ちがよいハードタイプ。M、ML、L、2Lの4種。価格はオープン



▲ツメ付きなのでバックヤや船ペリにも取り付け可能
▲鮮度のよさが自慢

SW生LL



コマセダイにおすすめのLLサイズ。新鮮なオキアミの中からとくに大粒を厳選。ミニクーラーに収納、こちらは冷凍タイプ。価格はオープン



▲「釣れてくれてありがとう」この日、唯一のグラドルらしい表情

船長に聞いてみると、「イサキ釣りでは小さめがいいんです、これだとMがピッタリだと思います」
エサを付けて、さっそく投入。指示どおりタナ下10メートルまでコマセカゴを沈め、ゆっくり巻き上げて指示ダナでコマセを一振り、よしひさ丸流の釣り方、すぐにアタリが出たが、追い食いを狙うしほみん。ころ合いを見て巻き上げると、竿が大きく曲がり込む。



▲黙もくと釣るしほみん。グラドルの面影はない!?

上がってきたのは、いきなり25センチ級のダブルだった。朝イチがチャンスタイムはイサキの定石、すかさず再投入、すると今度は3尾掛けのパーフェクト。その後も空振りなしの投入が続く。
それにしてもしほみん、沖釣り歴はまだ3年にも満たないというが、手返しの早さは常連さん並み。男性ばかりの乗船者に交じって、初めはやや浮いている感があったものの、沖では完全にイサキ釣り師。黙もくと釣り続ける姿は「釣りガール」というより「釣りオヤジ」である。一時は食い渋りタイムがあったものの、10時を過ぎたころから再び入れ食いとなる。しほみんも手際よく数を重ね、40尾を超えたところで11時の納竿、船中では次頭だった。

まだ夜も明けきらぬ相模湾福浦港に、ジーンズに白のウエア姿の女性がたずんでいる。続々と集まる釣り人に交じり、ちよっと不釣り合いな出で立ちで出船を待っているのが「しほみん」だった。
「釣りは久しぶりなんです。興奮して眠れませんでした」と言うわりには元氣いっぱい。船長が現れると真先にあいさつし、右舷ミヨシに席を構えた。
乗船したのは福浦港のよしひさ丸。現在のメインターゲットは味のよいことでも知られる初島沖のイサキ。この日は平日にもかかわらず2隻出しの盛況だった。第3よしひさ丸の高橋勝久船長は20代前半の若船長、しほみんのことも知っていて、若い者同士すぐさま意気投合。船長が仕掛けや釣り方のコツをレクチャーし終えた5時半過ぎに出船となる。
6時過ぎに初島を間近にのぞむ水深50メートル前後、タナ38メートルで釣り開始となる。当地のイサキ釣りはオキアミコマセにオキアミエサというスタイル。しほみんが持参したのは釣りエサメーカー「ヒロキュー」の付けエサ、生イキくんシリーズの「ツインパックレギュラー」、「クリスタルハード」の各サイズ。



▲釣り終わって、お世話になった高橋勝久船長と



▲全員が20尾オーバーの好釣り日だった



▲船中最大は35センチ級のデブリサイズ

しほみんのイサキ釣り動画はこちらから
★当日の様子は以下のヒロキューサイトからご覧いただけます。



「たくさん釣れて大満足。家に帰ったら干物作りが楽しみです」
沖揚がりしてきれいに身支度を整え、船長にあいさつを済ませるころには、いつものグラビアアイドル、しほみに戻るのだった。